

びとう和広 市政報告

発行日：2020年5月1日

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

事業を検証し、安心・元気なまちを！

びとう市議は、三田市議会定例会令和2年3月議会の予算審議において、市の考えを確認し、自策を提案しました。

3月議会では、令和元年度補正予算・条例・一般質問・令和2年度予算審議等、多くの議事が行なわれました。

びとう市議は、令和2年度予算の経営政策常任委員会所管の事業審査や、総括質疑を行いました。

新型コロナウイルスの影響が日増しに大きくなり、その都度対策をしながらの議会運用となりました。

座席間隔の確保、出席者の絞込み、換気の励行、議員はマスクの着用、質問時間の短縮など多くの対策を打ち、計画した日程を全て完了できました。

(総括質疑と予算の審議ポイントは裏面を参照)

予算決算常任委員会 総括質疑(令和2年度予算審査) 令和2年3月16日(月)

びとう議員の総括質疑に答弁する森市長

1. 2020年度予算概要:「共につくる未来へのまちづくり予算」

〇2020年度の三田市当初予算

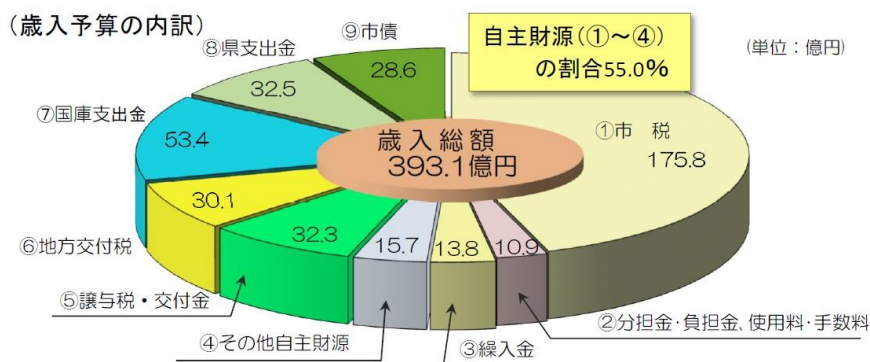
次世代につなぐまちづくり予算 ～人口減少にも負けないまちへ～

一般会計予算	393億1,200万円	対前年+14.8億円	対前年度比3.9%増
全会計予算	820億101万円	対前年+38.3億円	対前年度比4.9%増

- ・令和元年度は堅調な収支が見込まれる(市税収入の前年比見込み増や行財政構造改革等の結果)が、今後、国の交付金等は増加が期待できず、社会保障や公共施設・都市基盤の維持更新費の増大が見込まれる。
- ・財政の弾力性と中長期的に歳出全体の最適化を図り、財政の健全性を維持する予算である。

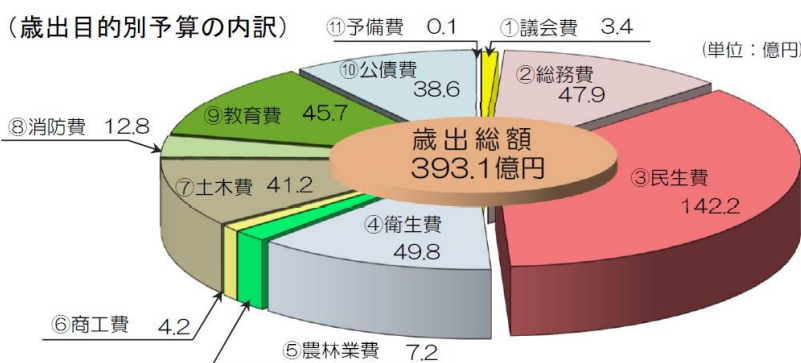
〇市税と基金・債務残高の状況

- ◇市税収入 175.8億円 1.2億円増
 - ・個人/法人市民税が減
 - ・固定資産税・都市計画税が増
- ◇基金残見込 62.5億円 6.6億円減
 - ・財政調整基金取り崩し 2.9億円
- ◇一般会計債務残高 355.7億円
- ◇全会計の債務残高 510.7億円



〇増減の主な要因(対前年度比)

- ◇一般会計(全体で14.8億円増)
 - ・小学校特別教室空調 4.0億円
 - ・橋梁長寿命化関連 2.4億円
 - ・クリーンセンター営繕 1.5億円
 - ・他会計支出金 2.2億円
- ◇特別会計(全体で5.8億円増)
 - ・国民健康保険事業 1.5億円
 - ・介護保険事業 3.7億円
 - ・後期高齢者医療事業 1.6億円
- ◇市民病院事業会計 1.8億円増
- ◇水道事業会計 12.0億円増
- ◇下水道事業会計 3.9億円増



予算審議：総括質疑（びとう市議）

1. 市の子ども医療費助成制度の見直し：

(問) 中学まで医療費完全無償から、条例改正で、2年前から、1施設、2回/月まで400円/回の自己負担となった。今年7月から800円に増額の計画だが、所得制限は。

(答) 所得制限は、市民税で23万5千円。世帯合算で年収約800万円となる。

(問) 世帯合算の手間と負担はどうか。また、支払時に世帯収入が区分される。

(答) 現状で配布されているカードで支払時に区分される。社会保障は支払い能力のある家庭に負担いただきたい。

(問) 条例可決時附帯決議をどう考えるか。

(答) 附帯決議の内容は、大きく2点。

①**社会情勢・財政状況・市民生活を考慮：**国では社会保障・医療費の増大が問題となっている。無償化をやめ、安易な受診が減り、病院の負担軽減や財政に効果あり。市民生活の状況では、コロナウイルスなど国の経済対策を見ながら判断する。

②**子育て支援の後退が無いこと：**子ども・子育て支援事業計画を策定した。地域が持つ、子育て世帯が住みよい環境を進める。レベルの高い教育資源が、三田の子育ての強みの一つと考える。

2. 第三テクノパークのコンセプト：

(問) 大量生産する工場を誘致できる時代ではない。どう進めるのか。

(答) 雇用数の確保ではなく、新しい創造的な産業(AI、ICTなど)に移行し、小さな企業でも将来性を見て、三田の交通の利便性を活かして、誘致を進める。

3. テレワークやサテライトオフィス：

(問) 新型コロナ対応でテレワークが加速する。市はどう進めるのか。

(答) 市も在宅勤務を開始した。ワークライフバランスを含め、率先して推進する。

＜子ども医療費助成制度（一部負担金400円⇒800円への引き上げ対象者）＞

平成30年7月～

	未就学児	小学生・中学生
低所得者以外	通院：0円 入院：0円	一部負担金 通院：400円 1医療機関等あたり月2回まで 入院：0円
低所得者	通院：0円 入院：0円	通院：0円 入院：0円

令和2年7月～

所得区分	未就学児	小学生・中学生
所得制限額以上 (市民税所得割額23万5千円以上世帯) ※給与所得者で概ね年収800万円程度	通院：0円 入院：0円 約6,100人	通院：800円 1医療機関等あたり月2回まで 入院：0円 約2,800人
所得制限額未満 (市民税所得割額23万5千円未満世帯)	通院：0円 入院：0円 約6,100人	通院：400円 1医療機関等あたり月2回まで 入院：0円 約6,100人
低所得者 (市民税非課税で一定基準を満たす世帯)	通院：0円 入院：0円 約700人	通院：0円 入院：0円 約700人

総計約15,700人

今回の対象者
世帯数の約2割



吹き出しの人数は2019年4月1日時点の概数です。

2020年度三田市予算の審議ポイント(公共施設の維持・管理をどうする)

今回の審議の中で、財政が厳しい中、「人口減少に負けないまち」に向け、インフラや公共施設の保守・改修として、公共施設マネジメント基金の3億円を含め15億円が入っていました。別に、青野ダムのトイレ改修5千万円とバスシェルター改修7千万円の費用があり、議会から、高すぎるとの声が上がりました。ここでは、バスシェルター7千万の審議の概要を報告します。

神戸電鉄ウッディタウン中央駅前バスシェルター改修事業費：7,172万円(地図・写真参照)

(問) 工事の説明と事業費の算出根拠は。

(答) 平成8年UR(都市再生機構)が建設した駅と商業/医療施設との接続通路の屋根改修。全長470mのうち、今回の改修対象は130m。事業費は、交換部分の量計算、材料比較等を行い、算出した。

(問) 屋根部分が高く、幅も狭いので、雨風をしのごうができないと考えるが、費用対効果は。

(答) 一番高い部分で4.5mだが、構造上必要。風が強い場合、雨はしのげないが、日除けにはなる。費用検討した結果、従来の景観に準拠せざるを得ないと考える。

(問) 今後も維持管理に高額な費用が予想されるが、全体像を考え、将来を見据えた対応が必要ではないか。この際、全撤去してはどうか。

(答) 今回は経年損傷が大きく、天井パネルも交換するため高額だが、今後は計画を立て、点検・補修をしながら長寿命化を図る。今回の改修箇所以外の部分は、撤去を検討している。1日約1,200人の利用者の快適性を保つため、全撤去ではなく、改修したい。

⇒予算全体は認許したものの、本件は精査するよう、附帯決議としました。バブル期の贅沢な仕様は維持も大変で、将来への課題です。



＜自宅＞三田市西山2-11-13
Tel : 079-562-8653、
Fax : 079-562-0730
＜mail＞bit@venus.dti.ne.jp
＜ホームページ＞
http://www.bitokazuhiro.com

三田市議会議員 びとう和広

